



## 事業所における自己評価総括表

事業所名	おもちゃ箱まちだ（児童発達支援）			
保護者評価実施期間	2026年 1月 20日		～	2026年 2月 7日
保護者評価有効回答数	(対象者数)	30人	(回答者数)	23人
従業者評価実施期間	2026年 1月 20日		～	2026年 2月 7日
従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数)	8人
事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日			

### ○ 分析結果

	事業所の強みだと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	モニタリングを定期的に行い、適切に見直しを実施している	子ども一人ひとりの発達状況や特性を把握するため、アセスメントや日々の関わりをもとに児童発達支援計画を作成している。	計画作成にあたっては、児童発達支援管理責任者だけでなく支援に関わる職員間で情報共有を行い、共通理解のもと支援を進めることを意識している。
2	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、共通理解を持っている	送迎時や連絡帳等を通じて、その日の活動内容や子どもの様子、小さな成長や変化についてこまめに伝えるよう心掛けている。	日々の口頭連絡に加え、支援のねらいや成長の過程がより明確に伝わるよう、小さな変化も継続的に整理し、成長の見える化を進めていく。
3	通信やHP等で情報発信している	活動の様子や成長が分かる内容を、個人情報に配慮しながら継続的に発信し、保護者が見通しを持てる情報提供を心掛けている。	発信内容を定期的に見直し、支援のねらいや成長の過程がより分かりやすく伝える工夫を行うとともに、保護者からの意見を取り入れながら情報発信の質の向上を図っていく。

	事業所の弱みだと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間の振り返り・共有体制の不十分さ	支援前後の打ち合わせや振り返りが、日によって実施できていない場合があり、支援内容や気づきを十分に共有しきれていない点が課題である。	職員間の振り返り・共有を確実に行うため、支援前後に短時間の打ち合わせを実施し、当日のねらいや配慮事項、支援後の気づきや引き継ぎ事項を簡潔に共有する。
2	記録・評価の継続性にばらつきがあること	日々の行動観察やヒヤリハットの記録が十分に行えていない場面があり、支援の検証や再発防止に活かすきれていない点が弱みとして挙げられる。	記録方法を統一するとともに、記入項目を簡潔にすることで日々の記録を継続しやすくし、定期的な確認を行うことで支援の評価と改善につなげていく。
3	地域・外部との交流機会の少なさ	地域の子どもや住民との交流、地域に開かれた行事の実施ができておらず、地域資源を活かした支援やインクルージョンの視点での取組が限定的となっている。	地域の保育園や関係機関との情報交換や交流の機会を計画的に設けるとともに、保護者参加型行事や地域行事への参加を検討し、地域に開かれた事業運営を進めていく。